

健康ネットワーク

不都合な真実

最近マスコミの影響もあるのか、「真実を知りたい」という発言をする方が増えてきたように思われます。医療の結果が期待通りにならないとき、特に分娩のように無事に済んで当然と思っていたものが、そのようなにならないときに、このような発言をされます。しかし、その中の多くの方は、真実とは自分にとって都合の良いものであると思いついており、こちらがいくら誠意を尽くして説明しても全く聞く耳を持たず、不都合な真実を認めようとはしません。

大野病院産婦人科事件での遺族の方の反応も、この典型的なものでした。この事件は、妊婦さんが帝王切開の手術中に亡くなるという最悪の結果で、担当医が逮捕後刑事裁判となり、昨年8月に無罪判決が出たも

のです。刑事告訴の段階で遺族の方は「真実を知るために告訴した」と発言し、無罪判決が出た後は、「真実が明かされず残念だ。これからも真実を求めて闘う」と発言されました。遺族の方々の不幸な境遇に対しては深く同情しますが、裁判で詳細な検討がされたにもかかわらず、同じ問題提起をし、このような発言を繰り返すことには、疑問を感じざるを得ません。

真実を追求するという姿勢は正しいと思いますが、客観的かつ冷静に判断し、たとえそれが不都合なものであっても、真実として受け入れる見識は持つて欲しいと思います。



医師 中村 秀夫

ひとひと 女と男

「女性のための相談室」をご利用ください

皆さん、「女性のための相談室」を存じますか。羽生市女性センター相談室には自分自身の生き方や夫婦間の問題、親や子どもなど家族との関係、職場での人間関係など、様々な相談が寄せられています。問題をひとりで抱え、ストレスによって心身の不調を起こすこともあるかと思えます。どんな些細なことでも結構です。ひとりで悩まず、相談してみませんか？相談室では、お話を伺いながら、気持ちの整理をお手伝いします。堂々巡りしていたことや、様々な自分の思いが、人（相談員）に話すことで気持ちの整理がついたり、自分がどうしたいのか、という本来の意思に気付いたりします。

また、どこに相談したらよいか分からないような場合は、必要に応じて他の適切な機関を情報提供しています。専門の女性カウンセラーが相談をお受けします。（相談無料・秘密厳守）

利用方法（要予約）
相談日時 毎月第2・4水曜日 正午～午後4時
相談場所 女性センター内（電話相談可）
専用電話 ☎(563)5272
 詳しくは女性センター ☎(561)1681へお問い合わせください。（火曜日休館）



天地人・直江兼続の親友

「木戸元齋(休波)」

元齋は天文十八年（一五四五）羽生城主木戸忠朝の次男として、城内で生まれました。幼名は小七郎、後に和泉守範秀または元齋寿三ともいい、出家してからは休波を名乗っています。木戸家は、代々武術にすぐれ、歌の道も極めた超一流の家系でした。

十三歳の時、父や兄と共に小田原攻めに参加した元齋は、関東の上杉勢の武将が集まって開かれた歌会「将士参会」に列席し、上杉謙信の命で連歌の発句をよみ、参列者の注目をあびました。一五七四年、羽生城が滅び父と兄を失ったので、城兵を連れて膳城（前橋市）に移りました。そして、出家し休波を名のり、羽生城の再興を祈願しました。その後上杉謙信が亡くなったので、羽生城の再興をあきらめ、越後の上杉家を頼って、



羽生城再興の祈願状(奈良原家蔵)



元齋の読んだ連歌(上杉家蔵)

越後に移り住み上杉景勝に仕えました。ここで景勝の重臣・直江兼続と出会いました。元齋と同じ歌人でもあった兼続は、元齋を自分の支配地内の大宝寺城主山形県・鶴岡市として迎えたり、何くれとなく力になって助けました。文武両道にたけた、二人の素晴らしい家臣をもった景勝は、忍城をはじめ多くの城を攻め落とし、勢力をひろげました。戦いの合間をぬって歌会が開かれると、元齋と兼続は二人そろって参加し、

武家歌人として有名になりました。また元齋は、「歌会作法聞書」「師説撰歌和歌集」「古歌木戸元齋抄」などの著書を多く書いています。戦国の世、武士としての厳しい宿命のなか、愛と義を重んじ歌を通じて結ばれた友情は、終生離れることはありませんでした。いつとなく雲間を出て梅が枝の春の色香をあらわしにけり（元齋 一五七五年正月）

大河ドラマ「天地人」NHKの主人公直江兼続の姿と共に、羽生城ゆかりの木戸元齋をしのんでいただけたらと思います。

鳥島風月

俳句 (俳句連盟会員)

白鳥へまなざしそるへ園児たち 中手子林 塩田 章子
 淡々と枯木透間の朝の月 上岩瀬 篠崎 貞子
 紛れなき鎮守の杜の初音かな 砂 山 柴崎加代子
 落ちきれぬ葉に冬の芽の光りをり 上新郷 島崎 君江
 沼杉の映る水面へ鴨の陣 東 一 杉下 ゆき
 青葙の匂ひひろる注連作り 町 屋 諸徳寺富子
 枯蓮を素通りしたる沼の風 須 影 杉森 和子
 平穏な世が欲し今朝の福寿草 藤井上組 杉山 榮
 聞けぬふりするも一芸炉火はねる 稲 子 鈴木富美子
 寒釣の舟二つ三つ沼日和 上新郷 鈴木 理青

短歌 (羽生短歌会)

それぞれの漬物自慢女正月 砂 山 須永 梅子
 鳥を聞き風を聞きつつ日向ぼこ 南 五 須永 シン
 背越えてらふばいの香の面辺り 南羽生 関 俊子
 浮橋の軋みて鴨の散り散りに 三田ヶ谷 関口 英子
 逸れ球を追ひて見つけし露の臺 秀 安 関口 乙彦
 見馴れたる窓の景色も生き生きと 新鮮なりき旅より帰る 南 七 新井 愛子
 ちり鍋に初採り白菜たつぷりと 入れて囲めり冬の味覚を 上新郷 須永 悠古
 離れ住む娘と孫の来て別れのホーム 抱けば四歳児の温さ身にしむ 須 影 野村 節子